

(2) 食料品・飲料等製造業

平成 24 年経済センサス活動調査における産業中分類の食料品製造業と飲料・たばこ・飼料製造業を合わせて食料品・飲料等製造業とする。

① 概要

平成 24 年経済センサス活動調査によると、京都市の食料品・飲料等製造業の事業所数は 354 所（対前年増加率△3.0%）、従業者数は 10,080 人（同△6.5%）、製造品出荷額は、7,531 億 39 百万円（同△0.7%）、粗付加価値額は 1,146 億 91 百万円（同△

48.1%）である。また、粗付加価値率（製造品出荷額に占める粗付加価値額の割合）は 15.2%で、前年より低下している。

平成 14 年以降の推移を見ると、事業所、従業者数は増減しながらも緩やかな減少傾向にある。製造品出荷額は、増加傾向にあったが、平成 21 年以降についてはやや減少傾向となっている〔表Ⅱ-3-2-1、図Ⅱ-3-2-1〕。

京都市の製造業に占める食料品・飲料等製造業の割合は、事業所数が 12.1%、従業者数は 15.5%、製造品出荷額は 31.7%である。

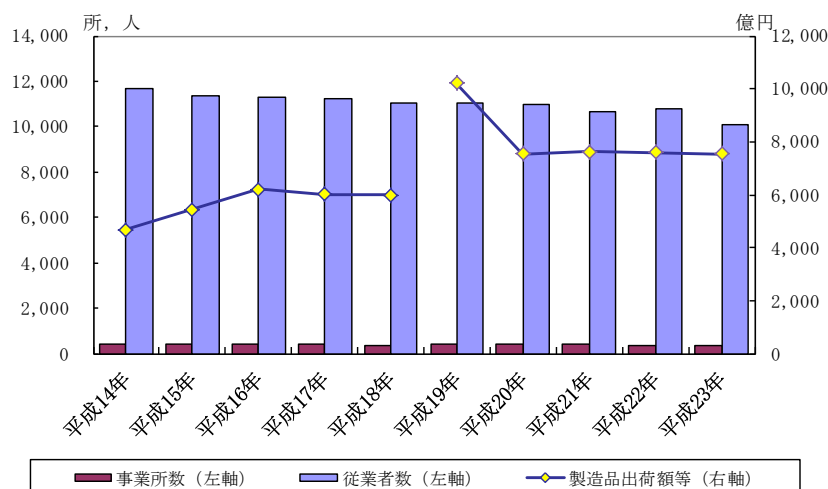
表Ⅱ-3-2-1 京都市の食料品・飲料等製造業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等、粗付加価値額の推移
(単位：所，人，百万円，%)

	事業所数		従業者数		製造品出荷額等		粗付加価値額	
		対前年伸び率		対前年伸び率		対前年伸び率		対前年伸び率
平成 14 年	410	-5.3	11,697	-3.2	468,208	-0.1	174,232	-1.7
平成 15 年	420	2.4	11,365	-2.8	543,188	16.0	191,566	9.9
平成 16 年	399	-5.0	11,280	-0.7	619,739	14.1	207,697	8.4
平成 17 年	405	1.5	11,220	-0.5	600,431	-3.1	187,236	-9.9
平成 18 年	380	-6.2	11,033	-1.7	599,640	-0.1	212,331	13.4
平成 19 年	397	4.5	11,064	0.3	1,021,737	—	372,927	—
平成 20 年	382	-3.8	10,950	-1.0	755,201	-26.1	232,587	-37.6
平成 21 年	382	0.0	10,686	-2.4	760,983	0.8	230,551	-0.9
平成 22 年	365	-4.5	10,778	0.9	758,595	-0.3	221,054	-4.1
平成 23 年	354	-3.0	10,080	-6.5	753,139	-0.7	114,691	-48.1

資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省統計局「平成24年経済センサス活動調査（製造業集計，市区町村編）」

注：平成19年調査で調査項目を変更したため、製造品出荷額等、粗付加価値額は前回の数値とは接続しない。

図Ⅱ-3-2-1 京都市の食料品・飲料等製造業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移



資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省統計局「平成24年経済センサス活動調査（製造業集計，市区町村編）」

注：平成19年調査で調査項目を変更したため、製造品出荷額等、粗付加価値額は前回の数値とは接続しない。

製造品出荷額の業種構成は、飲料・たばこ・飼料製造業が 82.1%，食料品製造業が 17.9%である。

飲料、たばこ、飼料製造業の製造品出荷額の約 9割を占める分類のデータが秘匿※されているため詳細な分析は不可能だが、公表されている分類で比較すると、清酒製造業が 5.7%と最も多く、次いで生菓子製造業が 3.5%，その他の水産食料品製造業が 2.6%と続く〔表Ⅱ－3－2－2〕。

※ 工業統計調査では、分類別の事業所数が 2 以下の場合には、当該分類の製造品出荷額等のデータを秘匿している。

なお、飲料・たばこ・飼料製造業のうち秘匿されている製造品出荷額の合計は 5,714 億 47 百万円であり、製造品出荷額全体の 2 兆 3,760 億円の 24.0%を占める。その中では、たばこ製造業が 1 事業所で従業者数 529 人と事業所規模が大きく、製造品出荷額でも多くを占めていると思われる。

表Ⅱ－3－2－2 京都市の食料品・飲料等製造業の主な産業（細分類）別事業所数，従業者数，製造品出荷額等
(単位：所，人，百万円，%)

	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
		構成比 (%)		構成比 (%)		構成比 (%)
食料品・飲料等製造業	354	100.0	10,080	100.0	753,139	100.0
食料品製造業	318	89.8	8,391	83.2	135,180	17.9
生菓子製造業	58	16.4	1,752	17.4	26,216	3.5
その他の水産食料品製造業	22	6.2	1,113	11.0	19,233	2.6
他に分類されない食料品製造業	48	13.6	727	7.2	16,418	2.2
野菜漬物製造業（缶詰，瓶詰，つぼ詰を除く）	19	5.4	387	3.8	10,325	1.4
豆腐・油揚げ製造業	16	4.5	605	6.0	9,405	1.2
パン製造業	8	2.3	566	5.6	6,011	0.8
ビスケット類・干菓子製造業	19	5.4	612	6.1	5,930	0.8
そう（惣）菜製造業	13	3.7	468	4.6	5,129	0.7
めん類製造業	17	4.8	319	3.2	4,866	0.6
飲料・たばこ・飼料製造業	36	10.2	1,689	16.8	617,959	82.1
清酒製造業	17	4.8	754	7.5	42,946	5.7
たばこ製造業（葉たばこ処理業を除く）	1	0.3	529	5.2	—	—

資料：京都市総合企画局「平成23年工業統計調査」

注：細分類については主なものを掲載。たばこ製造業の製造品出荷額は秘匿されている

② 清酒製造業

市内の清酒製造業は、多くの企業が伏見区に集積している。伏見区には、長年の歴史の中で培われた醸造技術や良質な水が豊富にある。江戸時代には京と堺を繋ぐ水陸運の要所として栄え、現代に残る清酒製造業なども創業し醸造地盤を形成した。明治時代後半には、国内有数の清酒醸造地として、兵庫県の灘と並ぶ地位を確立し、現在に至っている。

平成 23 年京都市工業統計調査（従業者 4 人以上の事業所）によると、京都市の清酒製造業の事業所数は 17 所、従業者数は 754 人、製造品出荷額は 429 億 46 百万円である。また、平成 23 年度国税庁税務統計によると、京都府の清酒課税数量は 100,939 キロリットルと兵庫県に次いで全国 2 位であり、全国の 16.7%を占める。平成 17 年度比では 12.0%減少しているが、全国平均や兵庫県と比較して減少度合いは低い。〔表Ⅱ-3-2-3〕

酒類業界は、若年層の飲酒離れ、高齢化に伴う飲酒量の減少、健康志向の高まりなど、取り巻く環境が依然厳しい。平成 24 年家計調査年報によると、近年の全国の酒類全体の消費額はやや減少傾向である。分類別に見ると、ビール、清酒、焼酎が減少している一方で、発泡酒、ウイスキー、ワインが大きく増加しているなど、消費動向が変化している。特に発泡酒の伸びは大きく、各メーカーが商品多様化に注力していることや、ビールの低価格代替品として需要が増加していることが一因である。ワインは、消費者が購入しやすい安価な価格帯の商品の販売や、多様化により日本でも定着しつつある。また、ウイスキーも、女性でも飲みやすいハイボール類の増加などが、消費者層の拡大に寄与している。〔表Ⅱ-3-2-4〕

表Ⅱ-3-2-3 酒税課税数量（清酒）の推移

（単位：kℓ，%）

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	対17年度 伸び率
全 国 計	729,686 (100.0)	700,369 (100.0)	675,944 (100.0)	652,980 (100.0)	616,210 (100.0)	602,656 (100.0)	602,987 (100.0)	-17.4
大 阪 国 税 局 計	343,829 (47.1)	313,684 (44.8)	320,514 (47.4)	313,122 (48.0)	304,032 (49.3)	291,417 (48.4)	288,469 (47.8)	-16.1
京 都 府	114,702 (15.7)	111,596 (15.9)	109,335 (16.2)	106,898 (16.4)	102,838 (16.7)	101,535 (16.8)	100,939 (16.7)	-12.0
うち伏見地区	112,909 (15.5)	-	-	-	-	-	-	
兵 庫 県	215,172 (29.5)	206,667 (29.5)	198,882 (29.4)	194,874 (29.8)	190,483 (30.9)	179,907 (29.9)	177,925 (29.5)	-17.3
うち灘地区	190,276 (26.1)	-	-	-	-	-	-	

資料：国税庁「税務統計（酒税関係）」

伏見地区、灘地区の数値は、大阪国税局からの聞き取りに基づく。平成18年度以降は非公表。

注：「灘」は西宮、芦屋、灘の税務署管内の合計、「伏見」は伏見税務署管内

（ ）内は全国に占める割合

表Ⅱ-3-2-4 全国の酒類の消費動向の推移

(単位：円，％)

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	対20年伸び率
酒 類 全 体	39,340	37,955	38,046	36,577	35,968	-8.6
清 酒	6,051	5,813	5,700	5,508	5,234	-13.5
焼 酎	6,441	6,212	6,439	6,065	5,708	-11.4
ビ ー ル	14,725	13,142	12,626	11,553	10,886	-26.1
ウ イ ス キ ー	1,020	1,119	1,153	1,023	1,326	30.0
ワ イ ン	2,075	2,226	2,267	2,413	2,588	24.7
発 泡 酒	5,278	5,106	7,361	7,477	7,758	47.0
そ の 他	3,750	4,337	2,500	2,538	2,467	-34.2

資料：総務省「家計調査年報（1世帯当たり年間品目別支出金額）（総世帯）」

③ 生菓子製造業

京菓子の歴史は古く、口伝によると、奈良時代に朝廷の御用を務めた後、平安遷都に伴って京に移転した事業所も存在するほどである。このように、長い歴史と伝統を誇る京菓子は、茶道と共に発達し、御所の年中行事や神社仏閣の供饌（ぐせん）菓子として供され、現在でも華麗さや品質の高さで全国的に親しまれている。

平成 23 年京都市工業統計調査（従業者 4 人以上の事業所）によると、京都市の生菓子製造業の事業所数は 58 所、従業者数は 1,752 人、製造品出荷額は 262 億 16 百万円である。製造品出荷額は、近年減少傾向が続いている。〔表Ⅱ－3－2－5〕

平成 24 年家計調査年報によると、全国の菓子類全体の消費額は、近年ほぼ横ばいに推移している。分類別では、和生菓子が平成 20 年比で 9.6%減少と最も減少率が高く、キャンディ、せんべい、ビスケットも減少している。一方、スナック菓子、アイスクリーム、チョコレートは増加している。八つ橋などの和生菓子は京都観光の土産品として全国的に人気が高いが、需要全体はやや減少傾向で推移しており、製造品出荷額も伸び悩んでいる。〔表Ⅱ－3－2－6〕

表Ⅱ－3－2－5 京都市の生菓子製造業の製造品出荷額等の推移

（単位：万円，％）

	製 造 品 出 荷 額 等	対 前 年 伸 び 率
平 成 14 年	2,470,089	-9.0
平 成 15 年	2,618,307	6.0
平 成 16 年	2,620,022	0.1
平 成 17 年	2,854,579	9.0
平 成 18 年	3,135,523	9.8
平 成 19 年	2,877,373	-8.2
平 成 20 年	3,406,109	—
平 成 21 年	3,329,197	-2.3
平 成 22 年	3,320,007	-0.3
平 成 23 年	2,621,596	-21.0

資料：京都市総合企画局「京都市工業統計調査（従業員4人以上の事業所）」

注：平成19年調査で調査項目を変更したため、製造品出荷額等は前回の数値とは接続しない。

表Ⅱ－3－2－6 全国の主な菓子類の消費動向の推移

（単位：円，％）

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	対20年伸び率
菓 子 全 体	67,083	67,818	66,412	65,335	65,843	-1.8
和 生 菓 子	10,670	10,577	10,288	9,819	9,649	-9.6
洋 生 菓 子	15,018	15,320	15,041	14,987	14,905	-0.8
せ ん べ い	4,639	4,655	4,459	4,427	4,457	-3.9
ビ ス ケ ッ ト	2,908	2,856	2,809	2,769	2,836	-2.5
ス ナ ッ ク 菓 子	3,293	3,320	3,349	3,334	3,440	4.5
キ ャ ン デ ー	1,986	2,192	1,961	1,879	1,817	-8.5
チ ョ コ レ ー ト	4,710	4,697	4,643	4,673	4,910	4.2
ア イ ス ク リ ー ム	5,945	6,124	6,333	6,150	6,205	4.4
他 の 菓 子	17,913	18,074	17,529	17,298	17,623	-1.6

資料：総務省「家計調査年報（1世帯当たり年間品目別支出金額）（総世帯）」